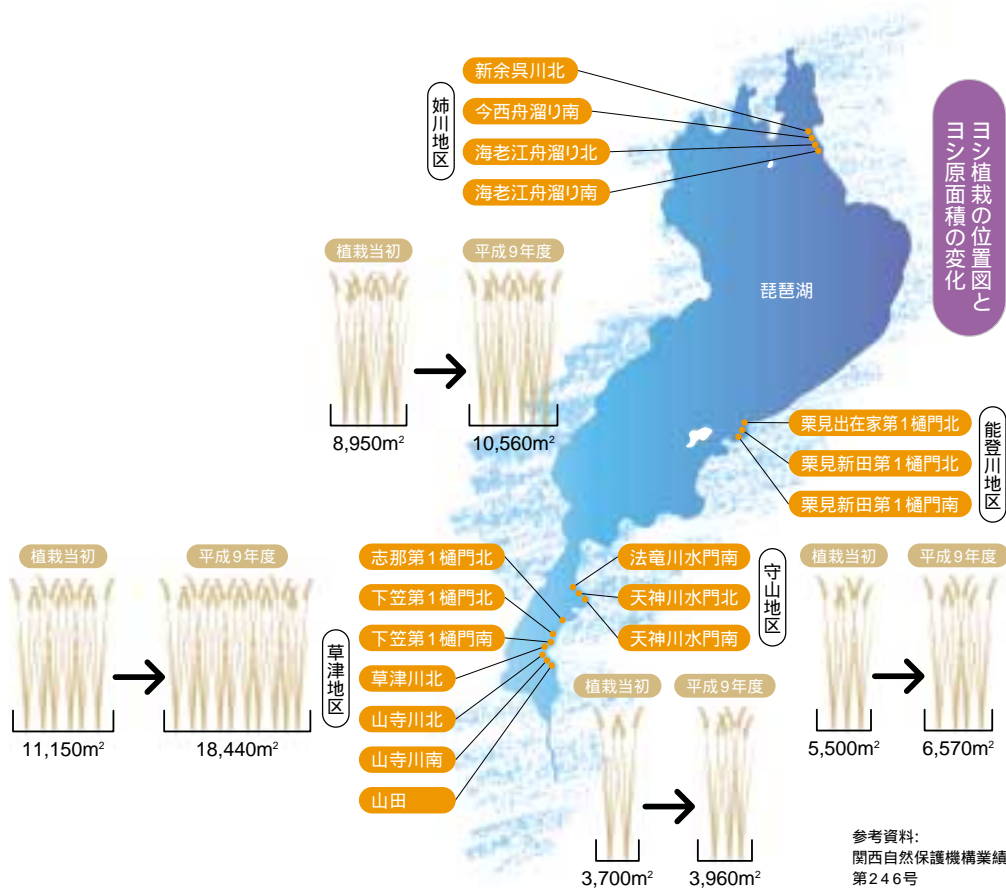


豊かなヨシ地の復元を めざす植栽事業。

水資源開発公団では、昭和52年からヨシの人工植栽の研究や試験をスタートし、その成果をもとにヨシ原の復元のための植栽事業を行ってきました。平成9年度の時点で、植栽を開始した時期に比べてヨシ原の面積が約35パーセント広がり、ヨシが確実に琵琶湖に根付いていることがわかりました。また、植栽事業を進めるなかでいくつかの貴重なデータや情報を得ることができました。たとえば、現存するヨシを減らすことにつながるため、自然生のヨシを採って移植するのではなく、種子から発芽したものを育ててヨシ苗とすること。また、移植方法については「ポット苗移植法」や「大株苗移植法」などいくつかの方法を試みることで、経済性をふくめたそれぞれの特徴を把握することができました。

さらに、植栽地の造成に関しても、理想的な土質や地盤標高、消波施設の必要性などがわかりました。これらの情報は、琵琶湖だけではなく、全国の河川、湖沼など、数多くのケースに活かされ、あらたなヨシ原の復元に大きく貢献するものと期待されています。



ヨシ植栽のプロセス

「種子から発芽したヨシ」を「大株苗移植法」で、新たにつくったヨシ地に植える過程です。



1 ヨシ育苗成地で育てた苗を地下茎ごと1辺40～50センチメートルの立方体に切り取り、株分けします。(大株苗移植法)



2 湖辺に造成したヨシ植栽地に穴を掘り、切り取ったヨシ苗を移植します。



3 植栽2カ月後(草津地区ヨシ植栽地)



4 植栽3年後